

# 不登校の未然防止と解決について

LD、ADHD、高機能自閉症等の状態を示す児童生徒がいじめの対象になったり不適応を起こしたりする場合があります、それが不登校につながるという課題（二次障害）が指摘されています。そのため、特別支援教育、生徒指導、教育相談の総合的な観点からの不登校未然防止へのアプローチが大切と考え、LD、ADHD等研究講座をはじめ生徒指導研究講座、初任者研修、校長講座等でも、この一貫した観点を研修内容の柱の一つとして実施しています。

講座「LD、ADHD等研究講座」（6月29日・7月5日実施）

## 講義「LD、ADHD、高機能自閉症等の理解と支援」

大阪教育大学 名誉教授 竹田 契一先生

特別支援  
教育

特別支援教育コーディネーター養成「LD、ADHD等」講座及びLD、ADHD等研究講座では、大阪教育大学名誉教授の竹田契一先生から、小・中・高等学校の実践発表とも関連させ、LD、ADHD、高機能自閉症等の認知や行動の特性及びそれらへの支援方法について、たくさんの事例を、時にはユーモアを交えながら、具体的で分かりやすく講義をしていただきました。

特に、LD、ADHDや高機能自閉症等などの児童生徒に対して、教師の対応の仕方が大変重要で、無理解や不適切な教師の対応により、不登校等の二次障害に至るケースもあること。また、二次障害の対応について、幼いうちに障害を発見して、適切な教育支援をすることの重要性が強調されました。支援方法として、「困った子」ではなく「子ども自身が困っている」という視点に立って、行動等の背景を分析しその子にあった**指導プログラム**による対応や支援が必要であること。問題が起きた時に、すぐ対応するなど**不快体験**をため込ませないこと。「自分を理解してくれている」**カリスマチック・アダルト**の存在が重要であり、それが親・教師である場合は、不登校等の未然防止や犯罪防止力になるケースが多いことを学びました。

講座「生徒指導研究講座」（6月2日実施）

## 講義「児童生徒の問題行動等への対応」

京都少年鑑別所 法務技官 定本 ゆきこ先生(精神科医)

生徒指導

「生徒指導研究講座」では「不登校や問題行動等の未然防止」をテーマに、講義、小・中・高等学校からの具体的な実践発表、研究協議などを実施しました。特に京都少年鑑別所法務技官・精神科医の定本ゆきこ先生から児童生徒理解の観点の一つとして、LD、ADHD、高機能自閉症等への適切な対応の在り方をわかりやすく講義をしていただきました。

児童生徒とのかかわり方については、肯定的な声かけをしていくことで児童生徒に自己存在感が育ち、意識が前向きに変化し、本人が少しずつ周囲に適応した行動がとれるようになっていくという「よい循環」が生まれていくことを学びました。この考えについては、受講者から学級経営の中で様々な困難を抱えている児童生徒の指導に生かしていけるという声をたくさんいただきました。「**子どもを重層的に理解し発達の視点を持ち接すること**」その上で「LD、ADHD、高機能自閉症等を理解し、**二次障害を予防する適切な対応をすること**」が大切であるということ学びました。